

糖尿病看護の活動に奨励賞をいただきました!

A病棟 4階 (看護専門外来) 糖尿病看護認定看護師 いしかわ まりこ 石川 万里子

この度、社団法人日本糖尿病教育・看護学会から奨励賞をいただきました。糖尿病教育・看護に関し、着眼点が斬新で今後の発展を期待したい活動を行った学会会員もしくはグループに与えられる賞です。県内外で糖尿病関係の役割をいただき、医療職の教育システム構築や地域交流を促進するなど、活動してきました。たくさんの方々との出会いがネットワークになってつながり、それぞれの活動の下支えになっていることを認めていただきました。

“糖尿病看護”と出会う前、「指導」「教育」という言葉がしっくりこず、苦手意識もありました。しかし、日々糖尿病患者さんから教えていただくことがとても多く、お返しするためにも勉強しなくてはと糖尿病看護の世界へ導かれました。患者さんと話し始めると、患者さんは自分で様々なことを考え実施されていることを知り、驚きの連続でした。指導するのではなく、患者さんの伴走者になるのだと教えられました。学会活動の中で先輩方の患者さんに寄り添う看護実践に触れ、益々魅力に取りつかれました。患者さんのありのままを見る、という視点は、何より私自身の人生を助けてくれました。すべての出会いに感謝しています。そして、homeである当院の糖尿病チームと看護が語れる仲間感謝します!

今後も地域の医療職の皆様との連携を強め、患者さんが笑顔で暮らせるお手伝いをしたいと思います。ですので引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2022年11月15日~12月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
11/22(火) 18:00~19:45	チームアプローチによるがん患者の顎口腔摂食嚥下治療<第3弾エクステンド編>	Zoomによるオンライン配信	医療 本学	島根大学医学部附属病院
11/26(土) 14:00~15:30	第34回島根県がん登録研修会	Zoomによるオンライン配信	医療	島根県がん診療ネットワーク協議会 がん登録部会
9/1(木)~ 11/30(水)	令和4年度 第2回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
12/9(金) 18:00~19:15	今さら聞けない、染色体検査・遺伝子検査の基礎と現在の流れ	Zoomによるオンライン配信	医療	島根大学医学部附属病院 臨床遺伝診療部

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

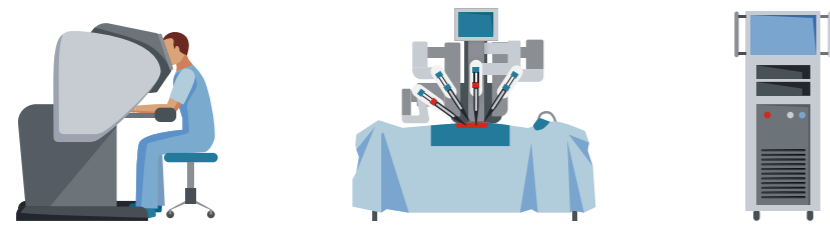


NEWS



CONTENTS

- ・手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」の2台体制がスタートしました!
- ・手術支援下瘳切除術を開始しました!
- ・糖尿病看護の活動に奨励賞をいただきました!
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」の 2台体制がスタートしました！

ロボット支援手術推進センター	センター長	わだ こういちろう 和田 耕一郎 (泌尿器科)
	副センター長	ひらはら のりゆき 平原 典幸 (消化器外科)
	副センター長	やまもと てつ 山本 徹 (消化器外科)

2022年9月30日、当院に2台目のダ・ヴィンチ Xi が導入され、10月から2台体制がスタートしました。2台目のダ・ヴィンチ Xi で実施した1件目の手術は、何と当院で通算1,000件目のロボット支援手術であり、2つの意味で記念すべき手術となりました！その手術も無事に終了し、患者さんは術後1週間で合併症なく退院されました(写真)。

2021年度は1台のダ・ヴィンチ Xi で210件のロボット支援手術が実施され、後遺症の残るような合併症もなく、安全に1年をのりきました。手術件数もさることながら、手術支援ロボットによる高い操作性と安全性の担保、手術待機期間が延長していること等による追加導入の要望を当センターでとりまとめ、2台体制のスタートに漕ぎ着けることができました。これまでロボット支援手術の体制整備、実施や運用にご尽力を頂いた方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

ロボット支援手術を安全に実施するため、当院には手術を実施する各診療科や手術部門のほか、多くの委員会や専門部会が稼働しています(図)。これらの組織が場面に応じて相互に機能を補完しあい、より安全性の高い手術を患者さんに安心して受けて頂けるような仕組みがつけられています。そして現状のシステムが決して完成型ではなく、多くの手術を実施する中でさらに成熟し、より質の高い、安全な手術を提供できる病院を目指しています。それを実現していくには、関連病院や近隣の医療機関の先生方、そして何よりも患者さんやご家族のご理解とご協力が不可欠です。これまで通り、本誌をご覧の皆様におかれましては、ご支援ご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。



ロボット支援手術1,000件目の患者さんと

島根大学のロボット支援手術実施体制

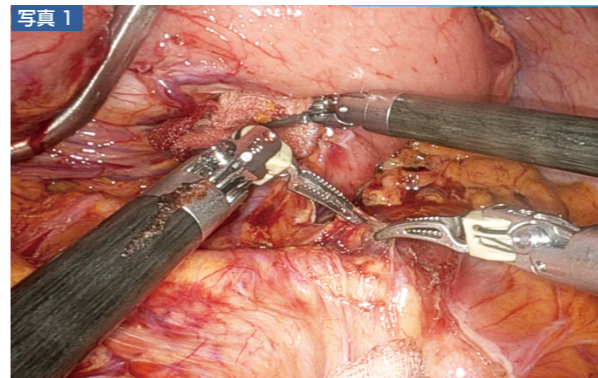
島根大学医学部附属病院の危機管理体制・安全対策



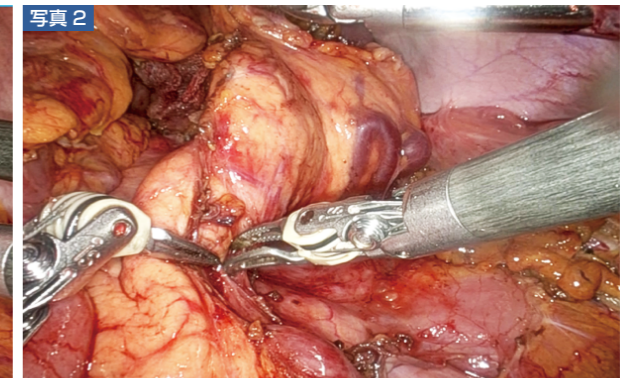
手術支援ロボット da Vinci 術者認定



ダ・ヴィンチを操作する川畑講師



膵尾線上縁の剥離



膵尾部背側の処理

ロボット支援下膵切除術を開始しました！

かわばた やすなり
肝・胆・膵外科 講師 川畑 康成

当科は、山陰唯一の肝胆膵外科高度技能専門医修練施設Aであり、肝胆膵領域の腹腔鏡手術にも注力しています。

腹腔鏡下膵切除術の施設基準は50件以上/年の膵切除術症例であり、この厳しい条件をクリアしての施設認定です(図1)。

2010年に腹腔鏡下膵切除術を開始して以来、100例以上の症例を経験してきました(図2)。コロナ禍で導入が2年以上延期されていたロボット支援下膵切除術を、遂に2022年9月から開始しました(ロボット支援下脾合併膵体尾部切除術)(写真1、2)。

これも、ひとえにロボット支援手術推進センターのご指導の下、肝・胆・膵外科スタッフ、および院内各診療科(消化器内科・放射線科・病理・内分泌代謝内科・麻酔科・腫瘍内科・ICU・栄養治療室・看護部・MEセンターなど)との連帯協力の賜物と、この場を借りて御礼申し上げます。

当肝・胆・膵外科の専門分野は腫瘍外科と内視鏡外科ですが、この領域でもロボット支援下手術の保険適用が拡大されつつあります。今後は、膵頭十二指腸切除術・肝切除術にも順次導入を予定しています。

肝・胆・膵外科の詳細はホームページをご覧ください。

問い合わせ先 外科外来 TEL:0853-20-2384

施設承認

膵臓

- ・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術(山陰地方で唯一)
- ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(島根県で唯一)
- ・腹腔鏡下膵腫瘍核出術(島根県で唯一)

肝臓

- ・腹腔鏡下肝切除術(島根県で唯一)

図1 膵臓外科 腹腔鏡手術

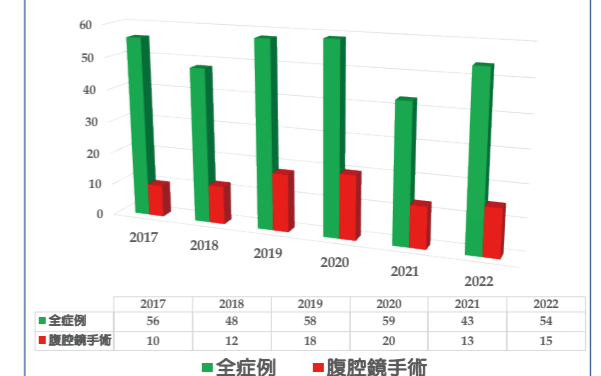
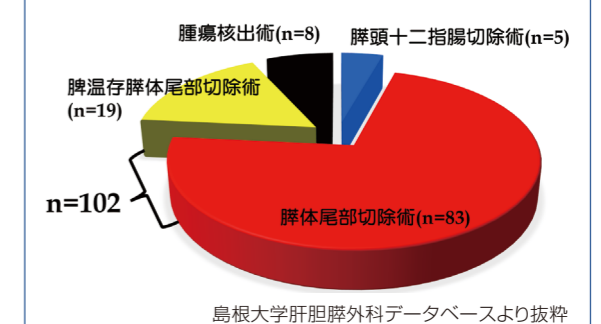


図2 腹腔鏡下膵切除術(2010-2021) n=115



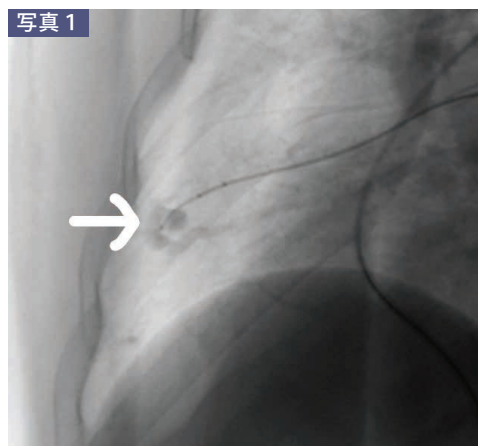


ご報告

肺動静脈奇形に対する 経カテーテル塞栓術について

放射線科	教授	かじ やすし 楯 靖
	助教	なかむら めぐみ 中村 恩
	助教	まるやま みつなり 丸山 光也

写真1



肺動静脈奇形は肺動脈と肺静脈が毛細血管を介さないで吻合する病態で、オスラー病（遺伝性毛細血管拡張症）との関連が深いとされています。シャント率に応じて無症状のこともあれば労作時の呼吸困難を訴えることもあり、奇異性脳梗塞や脳膿瘍の原因の一つです。長期的には心負荷の増大による心不全の可能性があります。診断には画像検査が有用で、特徴的な動静脈の形態をダイナミック造影CTで把握することができます。

日本インターベンショナルラジオロジー（IVR）学会ではデバイスの進歩に伴い本疾患に対する経カテーテル塞栓術について議論してきました。当初は吻合した動脈のみを塞栓術の対象としたものの再発しやすいことが判明しました。このため現在は動脈と拡張した静脈ごと塞栓する術式となり、再発率が有意に低下しました。他の治療法としては肺部分切除術がありますが、侵襲度を考慮し現在ではまず経カテーテル塞栓術を行うことが主流となっています。

胸部異常影の精査にて動静脈奇形と判明し、経カテーテル塞栓術を行った症例の画像を提示します。鼠径部より経静脈的にアプローチしたカテーテルを肺動脈に進め流入動脈を選択し（写真1）、バルーンで血流コントロールしながら拡張した静脈、流入動脈をコイルで塞栓しました（写真2）。治療により異常血管への血流は消失しました。

肺動静脈奇形と診断された場合、全例で直ちに治療が必要なわけではありません。当院では循環器内科と放射線科で相談しながら最適な治療や時期を決定しています。肺動静脈奇形が疑われた場合は下記問合せ先までぜひご紹介下さい。

問合せ先 放射線科外来 TEL : 0853-20-2392



ご報告

解剖学講座

発生生物学教室のご紹介

解剖学講座 発生生物学 教授 藤田 幸

2022年4月から発生生物学教室を担当させていただいています、藤田幸と申します。当教室は、1年生の組織学、2年生の発生学などを主体に、大学院やチュートリアルでの授業を担当しています。

私たちの研究室では、発生期の脳神経系の形成メカニズムの解明と疾患や加齢によってダメージを受けた脳神経系の機能回復を目指して研究を進めています。動く、話す、感じる、などのさまざまな人間活動の基盤となるのは、脳や脊髄にある神経回路です。私たちは、発生・発達期にこの神経回路がどのように形成されていくのか、それらの分子メカニズムを解明したいと考えています。また一方で、一度形作られた神経回路は、疾患や損傷、加齢などによって傷ついてしまう場合があります。神経回路が壊れた場合、どのように修復されるのでしょうか。私たちは、低下した脳機能の回復を促すような手法の開発についても、研究を進めています。

現在、当研究室では、6名の医学部生が研究を進めています。リサーチマインドを養うことで、より広い視野から医療ニーズを理解できる人材の育成につながります。そのため、積極的に新しく発見された研究トピックを紹介して、なぜ?どうして?と、自ら考える力を養えるよう、サポートしていきます。島根大学から面白い研究成果を世界に向けて発信できるよう努力してまいりますので、ご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。

問合せ先 発生生物学事務室 TEL : 0853-20-2102





ご報告

島大病院ニュース 2022年11月



職員による環境整備ボランティア活動を行いました

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

毎年、当院の環境整備は地域のボランティアの方々に定期的に行って頂くほか、業者に委託していますが、4年前から職員のボランティアによる環境整備も実施しています。今年は、病院区域だけでなく学部区域にも拡大して活動しており、6月25日(土)の慰霊碑周辺から大学会館周辺の環境整備に引き続き、第2回目を9月10日(土)に実施しましたところ、医師をはじめとした教育職員、医療職員、事務職員のほか、学生有志も加わり、50名近く参加がありました。

当日は、幾分暑さを感じる秋晴といった天候でしたが、医学部の中心に位置する基礎研究棟周辺の除草・剪定や落ち葉拾いを行いました。特に、医学図書館や学務課がある建物は、学生・教職員はもとより外部の方も集まる区域のため、整えられた景観は来学者に良い印象を持って頂けると考えています。

未だコロナは終息に至っていませんが、今後も感染に配慮し、環境整備ボランティア活動を積極的に行い、当院の美化を維持するよう努めてまいります。ご理解・協力頂きますようよろしくお願い致します。

問合せ先 会計課施設管理室 TEL: 0853-20-2549



2022年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2022年11月



各清掃ボランティアの皆様にお世話になりました

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

当院では、定期的に各種団体等の清掃ボランティアさんに草刈り清掃等の環境整備にご協力を頂いています。ここでは最近の活動の様子をご紹介します。

出雲慶人会さん

出雲慶人会さんには、これまでも年に2回当院の多くの場所の環境整備をして頂いています。

今年度は、第1回目を5月21日(土)に附属病院南側庭園を、第2回目を9月10日(土)に附属病院正面玄関北の池周りや正門の東西に位置している立体駐車場、患者用駐車場の周辺等、附属病院北側の広域な範囲の清掃活動を行って下さいました。9月10日は幾分暑さを感じる天候の中、午前7時30分～9時30分まで90名の方に草刈りや清掃を行って頂きました。日頃の清掃作業が行き届かない場所もあり、作業終了時は大変きれいな景観になりました。出雲慶人会の皆さん、本当にありがとうございます。

塩冶百寿会さん、JAしまね出雲女性部塩冶支部の皆さん

塩冶百寿会さんは塩冶地区の12名のメンバーで年4回(4月・7月・10月・11月)、定期的にボランティア活動を実施して頂いています。

2022年度の第3回目となるボランティア活動には10月1日(土)にJAしまね出雲女性部塩冶支部の19名の方々にも参加して頂きました。当日は好天の下、午前9時から10時までの間、附属病院北側の市道に面した敷地境界の歩道部分の草刈りと清掃を行って頂き、1時間後にはとてもきれいになりました。皆様方の尽力により、附属病院周辺の景観の維持ができています。塩冶百寿会とJAしまね出雲女性部塩冶支部の皆さん、深く感謝申し上げます。

問合せ先 会計課施設管理室 TEL: 0853-20-2549



2022年11月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



ご報告

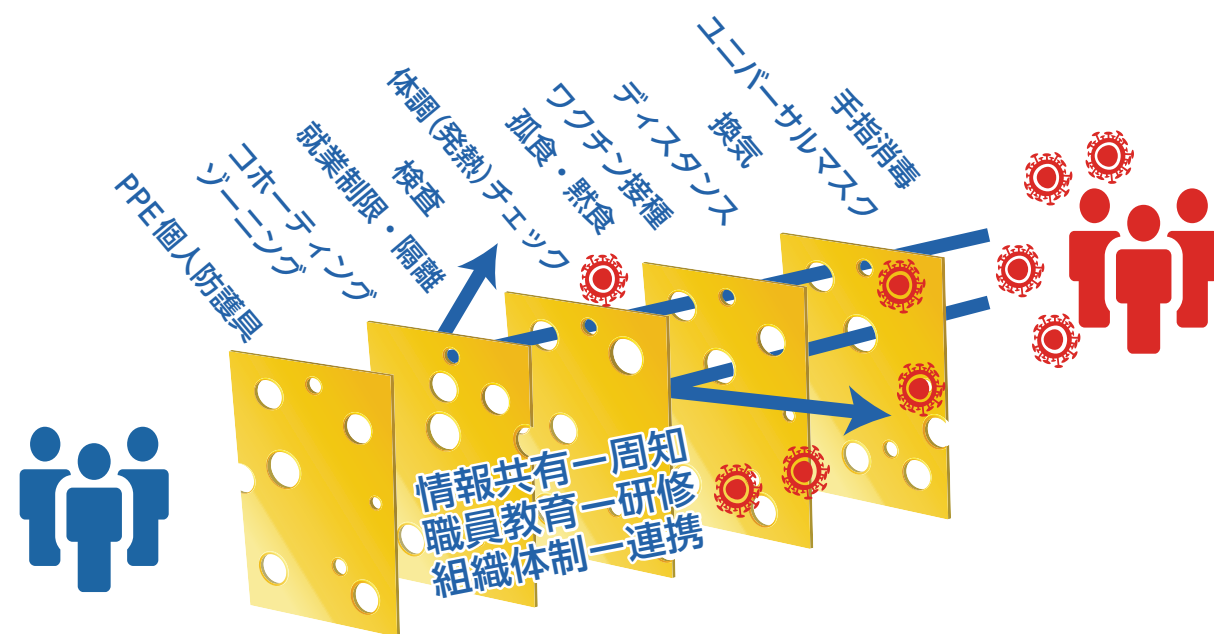
コロナパンデミックの 約3年間を振り返って

感染制御部 インфекションコントロールドクター (ICD) さの ちあき
佐野 千晶

COVID-19 (Coronavirus disease 2019) は、人類の歴史上で最大規模罹患者でのパンデミック、いわゆる世界的感染流行へと至り、今もなお、SARS-CoV-2 (Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2, 重症急性呼吸器症候群 コロナウイルス 2) とヒトとのせめぎ合いは続いています。2019年の年末に中国武漢市での肺炎流行のニュースから、はや約3年が経過しました。例えば、1918年から日本で猛威をふるったインフルエンザウイルス H1N1 (スペイン風邪) では、第一次世界大戦末期、食糧難、地域医療が貧弱、マスクがない、治療法がない、などといった状況下のパンデミックでありましたがそれでも約3~4年で収束に至りました。現在のさまざまな対策やワクチン接種をしながらでさえ3年以上という異常に長い流行期間から考えて、SARS-CoV-2 が如何に強かで対峙が難しいウイルスであるかを物語っています。まさに時代が大きく変化する只中に、我々は生きていますと感じます。

飛沫によってうつることが多い SARS-CoV-2 には、手指衛生、ユニバーサルマスク、3密機会の回避、ディスタンスの確保、換気といった基本的な感染対策に加え、組織的、社会的な対策も有効です。感染拡大抑制策は穴のあいたスイスチーズに例えられ、さまざまな対策を同時に組合せることにより感染拡大リスクを抑制すると考えられています (図)。

負担は病院にも個人にも続いておりますが、収束に向けての希望を持って皆様と共に感染対策に取り組んでまいりたいと思います。どうぞご協力の程、何卒宜しくお願い致します。



スイスチーズモデル：リスク管理の考え方

災害対策本部の様子

出雲キャンパス大規模災害訓練の実施について

災害医療・危機管理センター (DIMCOC) センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

当院は災害拠点病院に指定されており、毎年災害訓練を実施することが義務づけられています。今年も大規模地震を想定した災害訓練を実施いたしました。今回は、医学部と附属病院の両者の災害対応に関するBCP (業務継続計画) を統合いたしましたので、これに基づき医学部側を含んだ本学出雲キャンパス全体の災害訓練として実施いたしました。

出雲市を中心に震度7の地震が発生したとの想定で、発災直後の初動、医学部災害対策本部の設置、被災者救護のための現地診療指揮所 (救護所) の設置、医学部学生の安否確認、出雲キャンパスの被災情報収集など、BCPに基づいた訓練を実施しました。特に医学部側の災害対応のBCPの検証作業により、今後取り組むべき課題が抽出され訓練としての成果が確認できました。また、今回は職員への情報通信ツールであるレスポンスサム (respon:sum) を用いた安否確認、職員の各部署への配属指示通知、人員配置の可視化システムの活用など新たに導入された試みの検証も実施しました。

当院では、災害訓練の繰り返しにより、被災直後であっても速やかに地域医療の機能を取り戻し、被災された傷病者の皆さんをはじめ、通常の医療を必要とする患者さんへ医療提供を継続できるよう平時から準備を進めて参ります。

問合せ先 災害医療・危機管理センター TEL: 0853-88-3040



電子カルテ停止を想定した紙カルテ対応訓練



応急救護所の様子





ご報告



ご報告



クリスマスツリーのオーナメント



手作りマスク

みんな大好きなマックで遊ぼう 「ようこそマックンへ」



小児病棟保育士

チャイルドライフスペシャリスト

つばき 敦美
あつみ まいこ
とうま 麻衣子
藤間 黒崎
くろさき あかね

長期入院している子どもたちから「マックがやりたい」と希望があり、お店屋さんごっこのイベントを開催しました。「ハンバーガーは、注文がきてから作るんだよ」「看護師さん達もあつたら嬉しいよね」「おまけもつくろう」と言いながら、子どもたちと準備をしました。当日は、手作りの帽子をかぶった店員さん役の子どもたちが「笑顔は0円よ」と、受付してくれた後、「ようこそマックンへ、ご注文は何にしますか?」と、お客さん役の子どもたちや付き添いのご家族、看護師たちから注文を受け、折り紙で作ったハンバーガーセットを作ってくれました。レジでは、おまけのキーホルダーを渡していました。

子どもたちからは、「レジでお財布をもらって、本物みたいに注文できて楽しかった」「みんなが来てくれてうれしかった」「お客をするのも店員さんをするのも、新鮮で楽しかった」、ご家族からは、「子どもの思いをくみ取って、準備から当日までさせてもらい、生き生きとした子どもの姿が見られてよかったです」「楽しみがあったことで気持ちが元気でいられて、乗り切ることができたように思います」「入院しているお兄さん、お姉さん、医学生さんと一緒に楽しめるのもよかったです」などの感想をいただきました。

入院中の子どもたちのために企画したイベントでしたが、子どもたちは、みんなに喜んでほしいという思いでお店の準備をしてくれました。これからも病気を待つ子どもたちと家族が心から笑えるような取り組みを続けて参ります。

問合せ先 小児センター TEL: 0853-20-2616



医学部キンダーフロイントの活動について

島根大学医学部医学科5年 キンダーフロイント代表 すみだ 菜緒

キンダーフロイントは、当院の小児科に入院している子どもたち、付き添いの保護者の方と一緒に楽しめるような活動を毎月行っている部活動です。1979年に設立され、現在52名の部員が在籍しています。

入院という環境の中で、少しでも思い出に残る活動が行えるよう、2月はバレンタイン、5月はこどもの日(写真1)、8月は縁日(写真2)、10月はハロウィン、12月はクリスマス(写真3)など季節を感じられるような活動を多く企画しています。活動内容は、毎回どのような活動を行いたいかな企画の段階から、学生を中心に皆で案を出し合い考えます。スライム作りや工作も人気です。参加された方からは「大人も子どもも楽しめて良かった」「気分転換になった」「準備も楽しかった」などの声が聞かれ、企画への励みとなっています。

2019年からはCOVID-19の影響を受け、現在もまだ小児病棟への学生の立ち入り制限がある中でも活動を行っています。この3年間は部員の手作りマスク(写真4)を小児病棟へ寄付したり、オンラインを通して読み聞かせや手遊びゲームを行ったりなど工夫して活動を行ってきました。入院中でもCOVID-19流行禍でも、内容や方法次第で楽しめることはたくさんあります。キンダーフロイントの活動を通して、入院中の子どもたちや保護者の方の笑顔が少しでも増えて、コミュニケーション促進やストレス軽減のきっかけになれば幸いです。

病棟で直接お手伝いできる日が早く来ることを部員一同心待ちにしています。





2022年度

造血幹細胞移植医療体制整備事業に関する講演会を行いました！

血液内科 助教 たかはし つとむ
高橋 勉

写真

リハビリテーションプロトコール

移植患者のリハビリテーションについての講演の様子

サイトカイン放出症候群 (CRS) に対する看護

状態が急激に変化する可能性→早期対応が大切！

- 輸注後、発熱が出現した際、心電図モニター、SpO2モニターを装着し全身状態を観察
★緊急時に備えて救急カート、酸素吸入、吸引器の設置
- 発熱、酸素低下が見られる時は酸素投与を行い呼吸状態に注意する
- 発熱、血圧低下が見られる時は補液負荷を検討する
- 発熱に対し解熱剤、トシリツマブの投与を行う
- トシリツマブで十分な効果が得られない場合にはステロイド投与を検討する
- 倦怠感を伴うので身の回りの介助を行う
- 転倒リスクも高くなる為、トイレ付き添いを行う…一時的に尿量減少も発生する
- 検温以外でも体調に変化を感じた時には体温測定を実施

状態悪化時は、ICU入室に備え早期から

CAR-T療法での看護についての講演の様子

造血幹細胞移植は急性白血病などの血液がんを治すことができますが、重篤な副作用を合併することもある治療です。日本のどこの地域でも最適な移植が受けられ、移植後の支援も受けられる体制の構築を目的とした「造血幹細胞移植医療体制整備事業」が拠点病院を中心に行われており、当院は島根県を代表する地域拠点病院として事業を行っています。

今年度は移植についての講演会として、8月17日に「血液がんの診断・治療の勉強会」、9月30日に「かかりつけ医を対象とした勉強会」、10月8日に「スキルアップ web セミナー」(写真)をハイブリッド形式で開催し、県内外より各々86名、44名、110名の方にご参加いただきました。造血幹細胞移植に携わるスタッフの知識・技術の向上ができ、専門外の方々にも移植について知っていただきました。

引き続き島根県の血液疾患の診療レベルの維持・向上に努めて参りますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

問合せ先 **先端がん治療センター TEL : 0853-20-2308**

